

2006 年 4 月 28 日

BMW とルノー、事故情報を交換

業界初、国外の異なるブランドの車両間のコミュニケーションが実現

ミュンヘン発：

真夜中に、一人で田舎道を走っていると想像して下さい。民家を通り過ぎたのはだいいが前です。カーブを曲がりきったところで、突然、車が道をふさいでいました。あなたはすぐにブレーキをかけて、かろうじて車を停めることができました。その車は鹿と接触していて、ドライバーは重傷を負っています。

そんな時でもあなたの車は、ボタンを押すだけで最も近い緊急対応センターにつながり自動的に事故現場の正確な位置を送信してくれます。瞬時にかつ自動的に、事故現場に接近している車にも警告メッセージを送ります。メッセージを受け取ったドライバーは速度を落として事故現場を安全に回避することができ、停止して救助を行うこともできます。救急車の到着にも数分もかかりません。あなたの車からの情報は現地の交通管制センターにも通知され、事故が発生した道路や事故の情報がデジタルラジオ放送で流れます。

今日、ミュンヘンで BMW Group の研究 技術開発部門とルノーの共同開発によるこの救援シナリオが、欧州委員会のメンバーに実演されました。欧州委員会の「情報社会とメディア」部門の副代表ユハニ・ヤースケライネン氏は、BMW とルノーは、大きなマイルストーンを成し遂げました。2 つの異なるメーカー間で、車両間のコミュニケーションに基づいた交通安全の応用性を実演してくれました。EU の資金援助によって調和と標準化の進展が得られたというイニシアティブを我々は歓迎しています」と述べています。ヨーロッパで初めて、異なるメーカーの車両間のコミュニケーションが可能となり、このテクノロジーがヨーロッパ全体の調和に向けての重要な一歩を踏み出したのです。

BMW Group の研究 技術開発部門とルノーは、2004 年からヨーロッパの研究プロジェクト GST (Global System for Telematics、テレマティックスのグローバルシステム)において共同開発に携わっています。EU との共同出資である GST は、操作が共通のテレマティックスサービスに向けたオープン・アーキテクチャーを開発しています。その上で両社はトピックスとゴールに協力し、それ以外にも独立して上述のシナリオを展開するために両社それぞれの既存またはその他 IPR にアクセスすることに同意しました。この共同開発の結果こそが、2 つのブランドの車両間の救命連絡なのです。私は、GST と車両間のコミュニケーションが、ヨーロッパにおける安全で効率的、かつ快適な移動と交通に大いに貢献をしてくれるであろうと期待しています」とユハニ氏は述べています。

相互運用型のプロトタイプは、BMW Group の研究 技術開発部門が開発したソフトウェアをベースにしています。このソフトウェアでは交換するメッセージの内容を定義しているので、車両間でスムーズなコミュニケーションが可能です。この相互協力の結果と、その結果から得られた知識は、両メーカーが積極的に関与している C2C-CC (Car-to-Car Communication Consortium、車対車コミュニケーション共同事業) で使用されます。現在このメンバーには、主要自動車メーカー8 社と研究パートナー12 社が入っています。ヨーロッパ及び国家研究プロジェクトの結果を基に、共通の無線周波数で車対物体 (X) へのコミュニケーションを展開して一般の業界標準を押し上げ、世界中で利用することが可能となります。

こういった車対車、車対インフラのコミュニケーションは、交通安全に新たな展開をもたらす、BMW ConnectedDrive コンセプトのもう一つのマイルストーンとなるもので、ドライバー・アシスタンス システム、テレマティックス、オンラインサービスを通じてドライバーと車、そして周囲の環境を繋ぎます。このコンセプトのモットーは、ネットワーク環境の整っているドライバーは、十分に情報を得たドライバーなので、より安全なドライバーである、ということです。

GST とは

EU 出資プロジェクトの 'Global System for Telematics (Global System for Telematics、テレマティックスのグローバルシステム)' は 2004 年にスタートし、ヨーロッパ全域に 47 社のパートナーを有しています。ERTICO (European Road Transport Telematics Implementation Coordination Organization、欧州 ITS 推進のための官民連帯組織) が調整役となり、自動車メーカー、サプライヤー、研究所が、オープンで標準化されたエンド・トゥ・エンド構造のテレマティックスサービスに取り組んでいます。実地試験用の 7 つのサブプロジェクトと 5 ヶ所の試験場において、革新的なテレマティックスサービスを費用効率が高く開発および供給することができるか、その環境を評価しています。詳細は以下のサイトで確認できます (英語)。

www.gstforum.de

www.ertico.com

C2C-CC とは

2004 年にアウディ社、BMW 社、ダイムラー・クライスラー社、フォルクスワーゲン社が共同で創立した C2C-CC (Car-to-Car Communication Consortium、車対車コミュニケーション共同事業) は、今日では主要自動車メーカー8 社と研究パートナー12 社に加え、業界標準および車対物体 (X) のコミュニケーションの世界的な調和に向けて共同で取り組んでいます。

車両間での任意のメッセージの交換は、無線 LAN 技術が用いられています。車対物体へのコミュニケーションにより、交通安全上の用途が無数に広がります。将来的に全てのブランドの車のドライバーがこの技術を利用できるようになることをゴールに掲げています。詳細は以下のサイトで確認できます (英語)。

www.car-2-car.org